

特集

豪雨や台風から命を守るために

～「まだ大丈夫」の思い込みは危険です!～



1 事前に調べよう!

- ▶ 土地を知る: 自宅が土砂災害警戒区域や浸水想定区域に含まれていないかハザードマップで確認しましょう。
- ▶ 避難所を知る: 土砂災害発生のおそれがある場合、次の4か所が避難所に指定されます。
- 東戸塚地区センター ■ 豊田小学校
■ 舞岡地区センター ■ 小雀小学校



2 事前に備えよう!

- ▶ 持ち出し品を日ごろから準備しましょう(ラジオ、水、懐中電灯、常備薬など)。
- ▶ 側溝や雨水ますをふさがないように普段から掃除しましょう。



3 気象情報を確認!

- ▶ テレビ、ラジオ、気象庁ホームページ、Yahoo!防災速報(※)などで、最新の防災情報を確認しましょう。※市では「Yahoo!防災速報」で防災緊急情報を配信しています。
- ▶ 横浜市防災情報Eメールに事前登録すると、防災情報がEメールで入手できます。
- ▶ ツイッターでフォローすると、避難情報を確認できます。



4 早めの避難行動を!

- ▶ 「自分は大丈夫!今まで災害はなかったから!」という考えは禁物です。



高齢者、子ども、障害のある人、病気の人など避難に時間を見る人は直ちに避難行動を開始してください

戸塚区に発令されたらすぐに行動開始!!

大雨・台風はニュースなどで情報が事前に得られるため、予測ができます。情報収集をこころがけ、早めの避難行動に努めましょう。

「まだ間に合う」は危険です!

総務課防災担当 大場 祐典

実践! 今すぐ始める災害時の備え

「防災の備えをするのは大変…」と思っていませんか? 日頃の生活でも、ちょっとした工夫で備えることができます。いざという時に役立つ防災の備えを、アウトドア流防災ガイドのあんどうりすさんに伺いました。

【プロフィール】

阪神・淡路大震災被災体験とアウトドアの知識を生かし、2003年から全国で講演活動を展開。神奈川県座間市「子育て世代の防災対策事業アドバイザー」(2017・2018年)



自分や家族の命を救うには、備えをしておかなければなりません。しかも、備えている、知っているだけでは災害時に対応できません。普段の生活中、意識しなくても防災が取り込まれているよう、身近なことから少しずつ始めてみてください。



【地震】の時に役立ちます!

過去の大きな災害では下水道復旧に2~3か月かかったことも…

バックに入れておきたいグッズはこれ!

～いつもの持ち物を見直そう～

● ホイッスル
閉じ込められた時に助けを求めるために。人の声よりも遠くまで届きます。



● LEDライト
小型で明るいLEDがオススメ。両手がふさがらないヘッドライトタイプは災害時に特に重宝します。



● 携帯トイレパック
災害時に困るのがトイレ。手のひらサイズの小さい物を一つ入れておくと安心です。



いつものバッグにこれらのグッズをプラスすることで、外出時や緊急時も安心です。

● 水洗トイレは水さえあれば使えそうですが、下水管が外れたり、ずれたりして破損していると水は流せません。下水道復旧前に誤って水洗トイレを使用すると、下水があふれ衛生状態が悪化するとともに、復旧がさらに長引くことがあります。

● 災害に備え、トイレパックの備蓄は必須です! 少なくとも一週間分は家族の人数に応じて、トイレパックを準備しましょう(1人1日5~8パック必要です)。

※トイレパックは1回で捨てず、節約して使いましょう。

● トイレパックが不足した時は、身のまわりの物で簡易トイレを作りましょう。

使用後は3重のうち内側の2枚を取って結んで捨てます。

作り方

- ① トイレの便座にビニール袋(45リットル位、できれば色付き)を3重にかぶせます。
- ② その中に、紙オムツ、ペットシートや猫用トイレ砂、新聞紙、古着など吸水性のあるものを入れて完成!

